令和元年度第２回越前町地域公共交通会議

日時：令和元年１２月１７日(火)
午後２時から
場所：越前町生涯学習センター
２階　会議室１・２

会　議　次　第

１．開会

２．会長あいさつ

３．協議事項

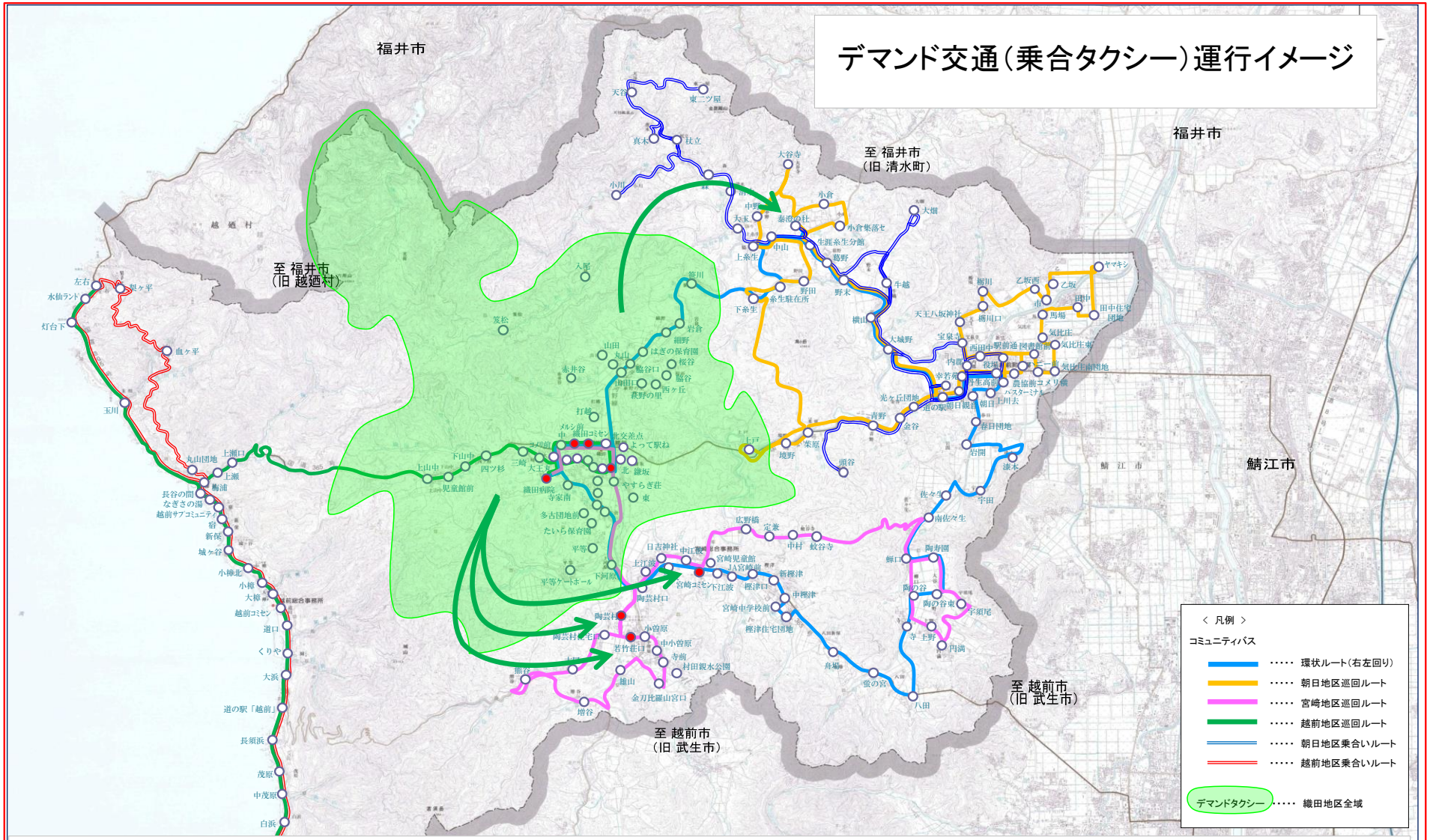
（１）一部区域におけるデマンドタクシー導入に向けた検討について	資料No.1
（２）越前町コミュニティバスの路線の廃止と新設の検討について	資料No.2
（３）京福バス清水織田線・ほやほや号織田ルートのバス停留所新設について	資料No.3

４．その他

・アンケート調査結果の報告	資料No.4
・路線バス通学定期券提示による越前町コミュニティバス無料乗車について	資料No.5
・コミュニティバスの商業施設駐車場への乗入れについて	資料No.6

５．閉会

デマンド交通（乗合タクシー）運行イメージ

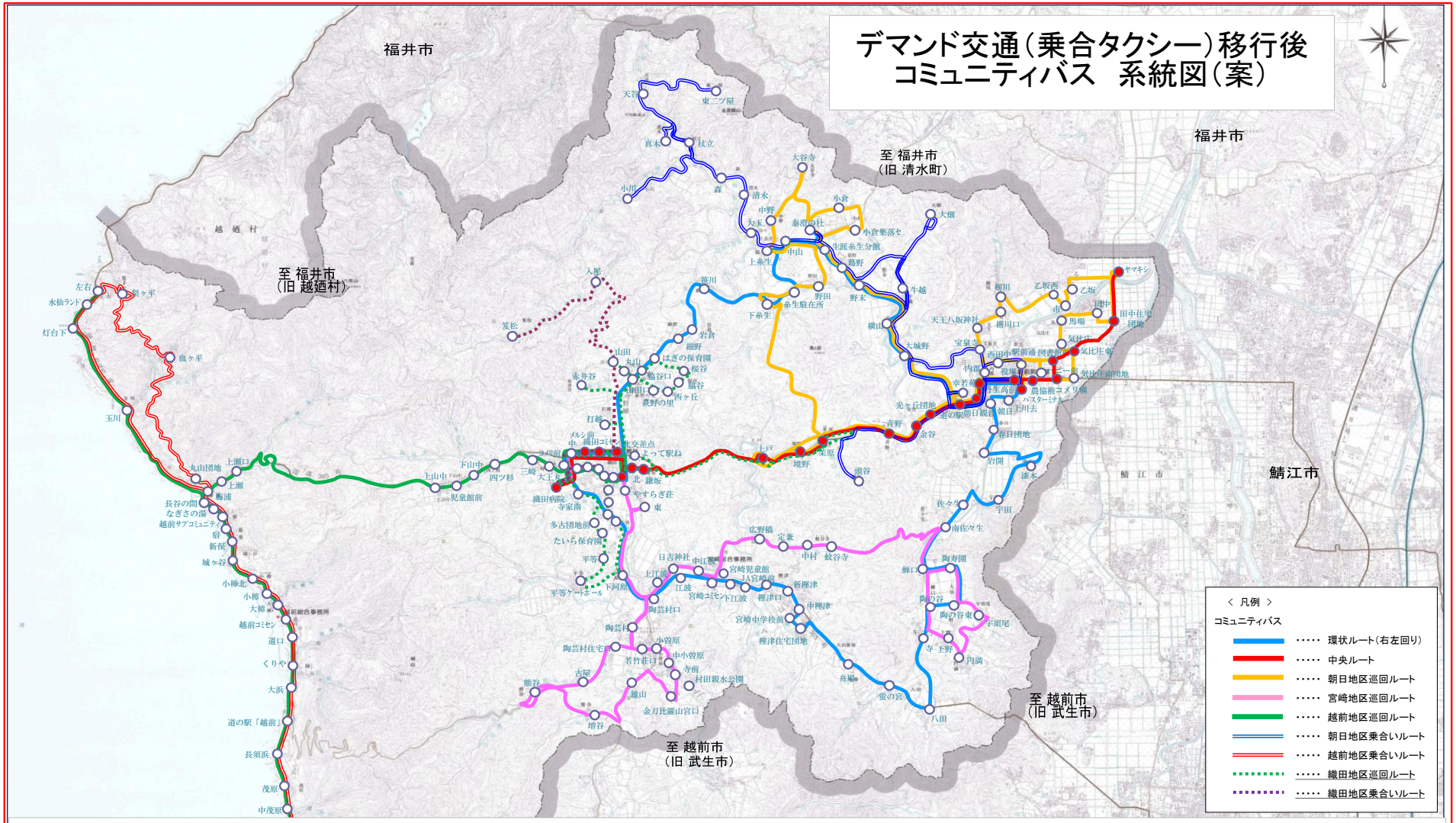


【織田地区におけるデマンドタクシー導入に向けた検討】

平成18年6月に越前町内全域でコミュニティバスを運行し、環状ルートを基幹路線とし、旧町村単位で巡回ルートを４路線運行、上糸生と入尾笈松、血ケ平梨子ケ平に乗合いルートを運行し、今年度で14年目を迎える。その間、平成23年には、住民アンケートで要望が多かった、土曜日の運行を開始した。経費の膨大を抑えるため、予約制のデマンド運行を開始した。3年後の平成26年には、土曜の利用がほとんどなかったため、環状ルートだけを残し土曜運行を取りやめた。

コミバス利用者数は、平成21年度の64千人をピークに年々減少し、昨年度は31千人まで落ち込んでいる。特に織田地区巡回ルートは、年間利用者575人と、1日あたりの利用者が2.3人、織田地区乗合いルートは年間33人、１日あたり0.3人と他の路線と比べ極端に少ないことから、織田地区巡回ルートと織田地区乗合いルートを廃止し、織田地区内を予約型のタクシー車両でのドアツードアのサービス提供する、デマンドタクシーを導入することを検討する。

資料1



【中央ルート新設の検討】

織田から上戸を経由し西田中に向かうルートは、現在福鉄バス福浦線が運行しており、福井市の学校に通う高校生が主に利用する路線である。運行時間は福井方面行きが午前3便、かれい崎行きが主に夕方4便運行している。日中の時間帯は織田朝日間を上戸経由で運行する路線はない。

織田朝日間の移動はコミバスだと環状ルート糸生まわりで30分、宮崎まわりで40分かかる。もしくは福鉄バス鯖浦線で30分かけての移動となる。上戸経由ならば15分程度で移動でることになる。また、青野や金谷から織田へも行き来できることに、さらには丹生高生のテスト期間中などの変則的な下校時間でも、織田越前方面に帰宅することができるなどの理由で、一定の利用者が見込めると考えられる。

アンケート調査結果によると、買い物でよく行く場所では、メルシに次いでヤマキシが多かったことから、起点終点をヤマキシに設定する。起点をヤマキシにすることで出発時間を調整し、買い物する時間を考慮したダイヤを組むことができる。

資料2

資料３

2019 年 12 月 17 日
京福バス株式会社

停留所の新設について

地区からの要望があったため、下記のとおり新設する。

記

1. 停留所名
   かみのだだんち
   「上野田団地」
   Kaminodadanchi

2. 場所
   丹生郡越前町下糸生１５７字堤７番６号先
   地権者は福井県、地目は山林、課税地目は公衆用道路、京福バスにて道路使用許可申請を行う。
   緯度 35.992806, 経度 136.093461、停留所番号 70088

3. 対象路線
   京福バス清水織田線（平日 1.5 回、土曜休日 1 回運行）泰澄の杜～野田間
   福井交通ほやほや号織田ルート（毎日 7.5 回設定）泰澄の杜～野田間

4. 実施日
   2020 年 4 月 1 日より

5. 運賃
   路線バスについては対キロ運賃とする。
   ほやほや号については、協議運賃路線のため越前町内停留所 200 円で設定する。

6. 標柱
   福井方面にのみ設置して、上下ダイヤを併記する。
   京福バスにて道路占用許可申請を行う。

7. 添付資料
   A)　位置図

以上

京福バス株式会社　　様

バスの停留所に関する要望について

福井県丹生郡越前町下糸生の上野田団地ですが団地には１４戸の住宅があります。

この団地も近隣のバス停まで約１キロメートルあり付近は住宅もなく、アップダウンの道路がある土地です。

運転免許所得までの若い住民や、運転免許を所得していない高齢者等が鯖江方面または福井方面に出るためには公共交通の活用が必要であります。

そのため、次の事項について要望いたします

令和元年１１月１９日

越前町上野田団地

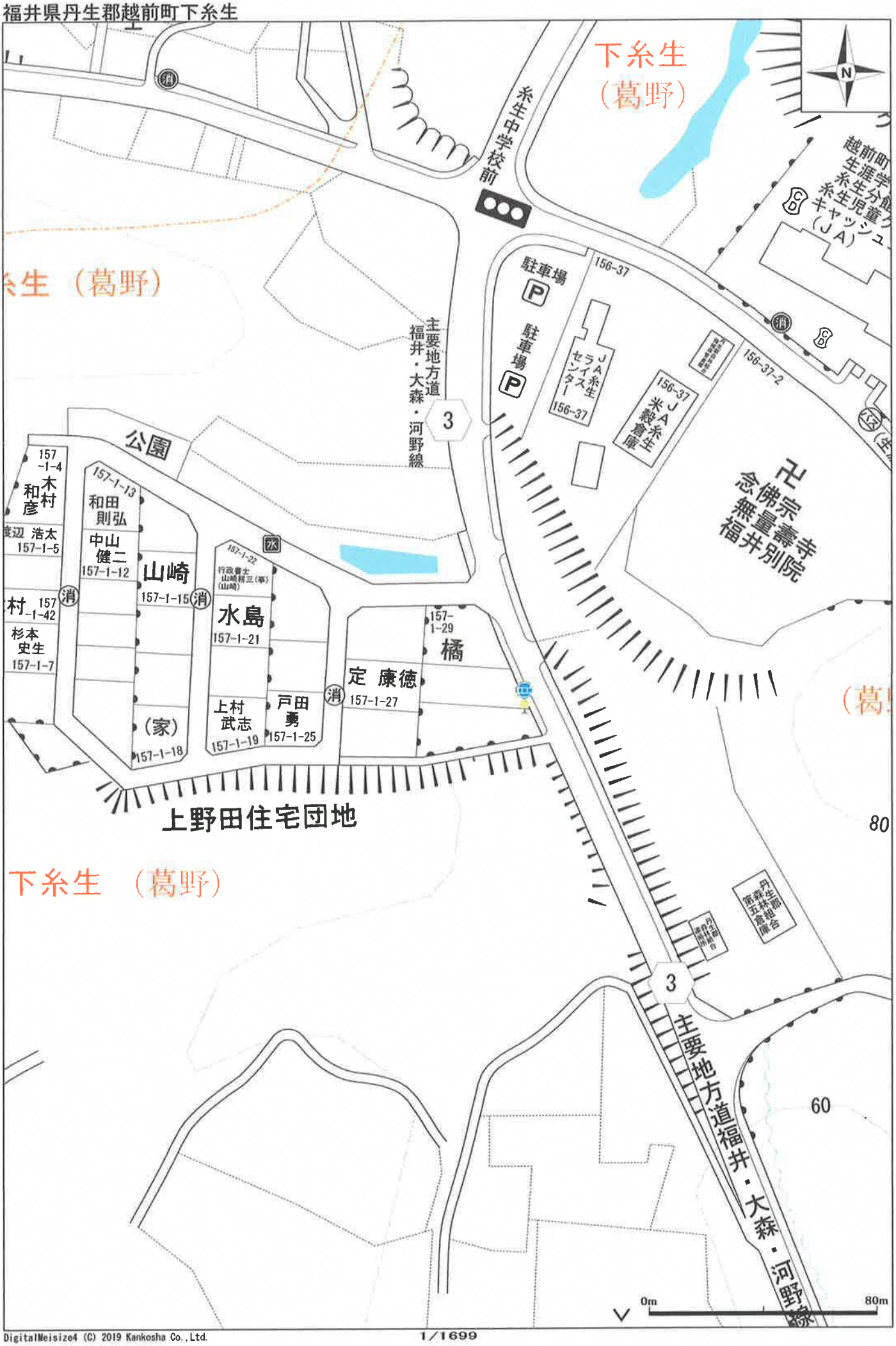
自治会長　渡邉　浩太

記

１　バスの停留所を団地東側の県道１箇所要望します。

以上

福井県丹生郡越前町下糸生



DigitalMeisize4 (C) 2019 Kankosha Co.,Ltd.

1/1699

資料４

令和元年度

越前町地域交通に関する
アンケート調査結果

報　告　書

（概要版）

令和元年９月

越　前　町

I. アンケート調査の実施及び分析

1.　町民アンケート調査概要

◇調査対象：満 15 歳以上の町民 2,500 名
◇抽出方法：住民基本台帳から無作為抽出
◇調査方法：郵送（無記名回収）方式
◇調査期間：令和元年 8 月 15 日（木）～8 月 31 日（土）
※期日後 9 月 13 日までに返送されたものを集計に含む。
・回収数：1089 票（回収率：44%）

公共交通に関する町民アンケートへの協力のお願い

利用しやすい公共交通をみんなで考えましょう！

町民の皆様のご意見をお聞かせください

越前町では、路線バス（京福バス、福井鉄道バス）、コミュニティバス『フレンドリー号』などの公共交通が運行され、皆様の日常生活の移動手段としてご利用いただいています。

今回、日常生活の移動手段や公共交通に関するご意見を把握し、より良い公共交通を実現するため、アンケート調査を実施させていただきます。いただいたご意見すべてにお応えすることはできませんが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力をお願いいたします。

なお、このアンケートは、令和元年７月１日現在で越前町にお住まいの15歳以上の方の中から無作為に2,500人を抽出し、送付しております。ご回答いただいた内容については、統計処理のためのみに使用し、他では一切使用しないことを申し添えます。

令和元年　８月　越前町企画財政課

【アンケートのご記入方法について】

1．同封の調査票にご回答ください。
2．回答は、該当する番号を○で囲んでください。また、質問ごとに、選択する○の数や、場所を直接記入するなど、回答方法が指定されていますのでご注意ください。
3．回答後は、調査票を同封の返信用封筒に入れ、**令和元年　８月３１日（土）まで**に、郵便ポストに投かん（切手は不要）してください。

【お問い合わせ】　越前町企画財政課
所在地：〒916-0192　丹生郡越前町西田中13-5-1
TEL　0778-34-8702
FAX　0778-34-1236

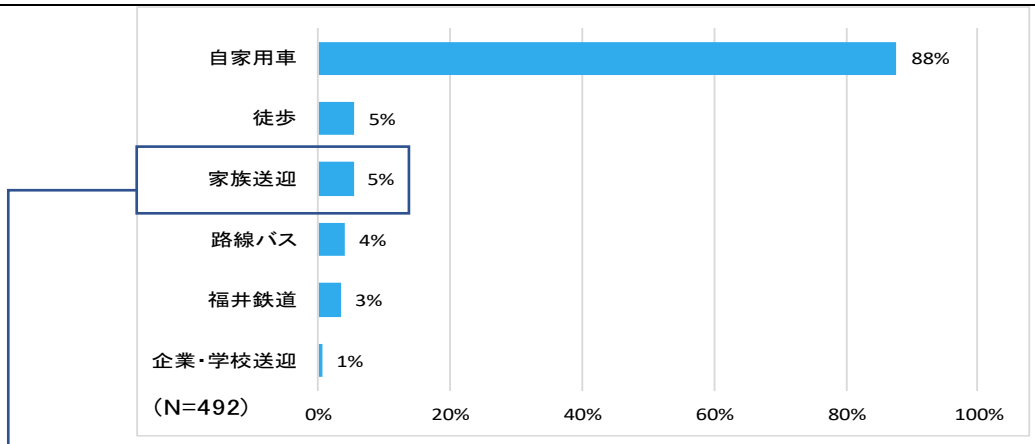
＜依頼文＞

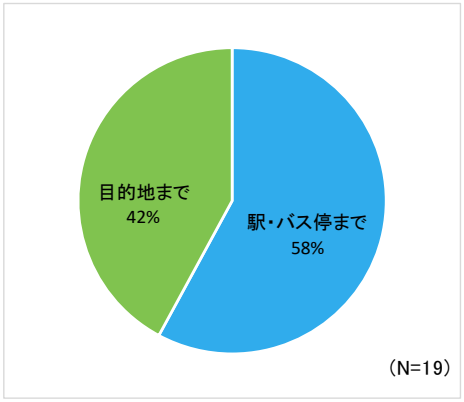
2. 調査結果

(1) 通勤通学の移動について

① 移動手段

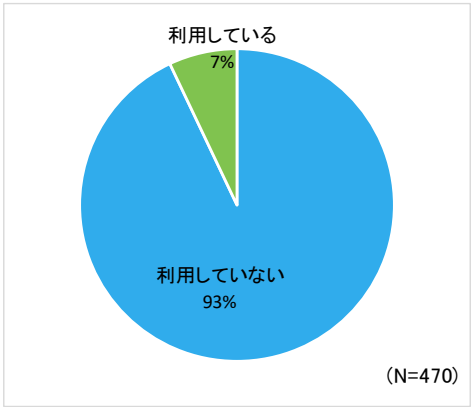
・自家用車が 88%で最も多く、次いで徒歩が 5%、家族送迎が 5%となっています。
・家族送迎の場合の送迎先としては、「駅・バス停まで」が 58%、目的地までが「42%」となっています。





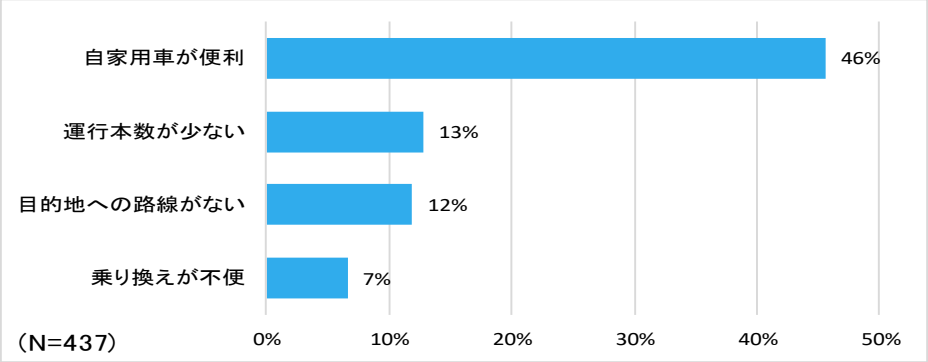
電車・バスの利用

・「利用していない」が 93%、「利用している」が 7%となっています。



②　利用しない理由

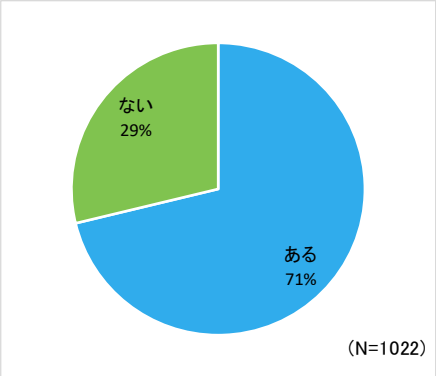
・「自家用車が便利」が 46%で最も多く、次いで「運行本数が少ない」が 13%、「目的地への路線がない」が 12%となっています。



(2)　その他定期的な移動（買い物、通院等）について

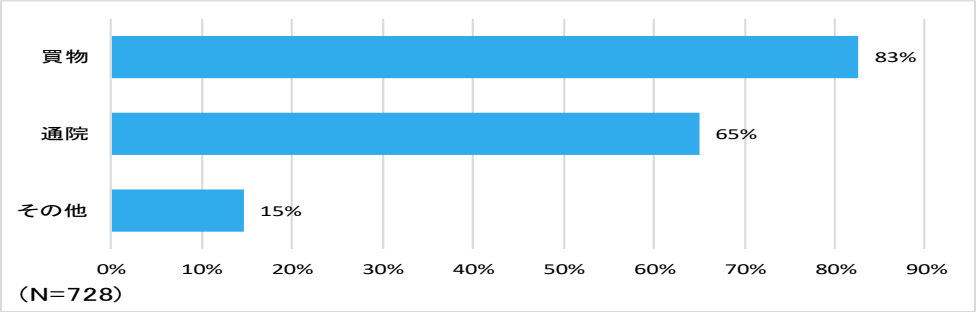
①　定期的な移動の有無

・「ある」が 71%、「ない」が 29%となっています。



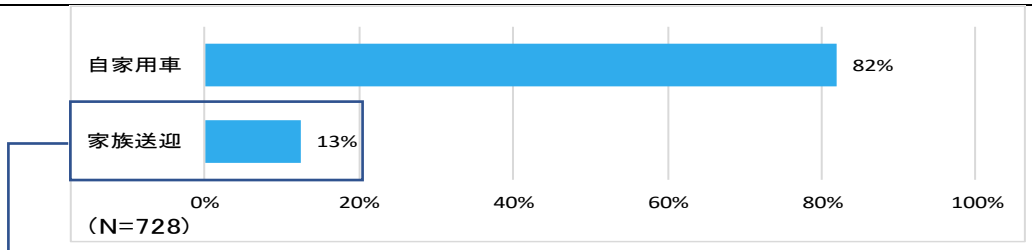
②　移動目的・目的地

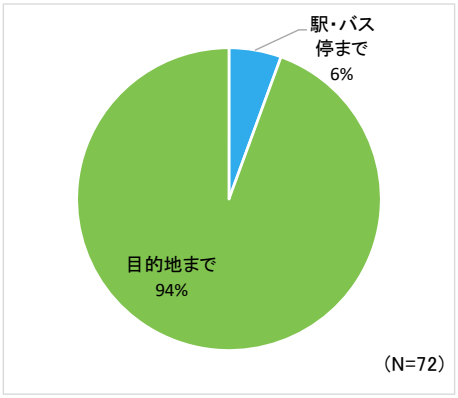
・「買物」が 83%で最も多く、次いで「通院」が 65%、「その他」が 15%となっています。



移動手段

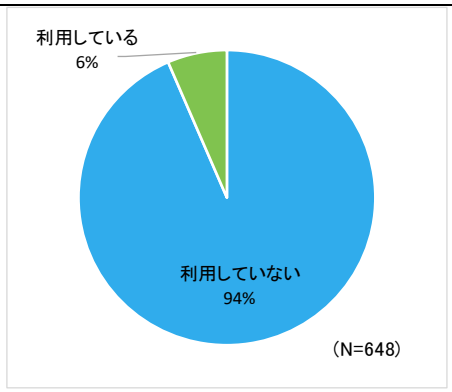
・自家用車が 82%、家族送迎が 12%となっています。
・送迎先としては、「目的地まで」が 94%、「駅・バス停まで」が 6%となっています。





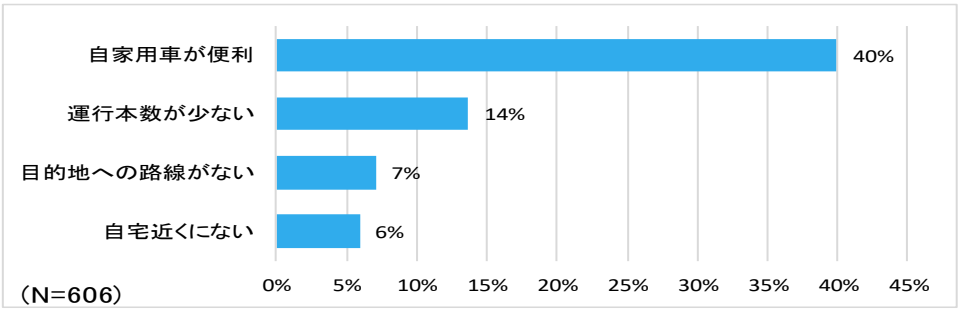
電車・バスの利用

・「利用していない」が 94%、「利用している」が 6%となっています。



③　利用しない理由

・「自家用車が便利」が 40%で最も多く、次いで「運行本数が少ない」が 14%、「目的地への路線がない」「自宅近くにない」が 7%となっています。

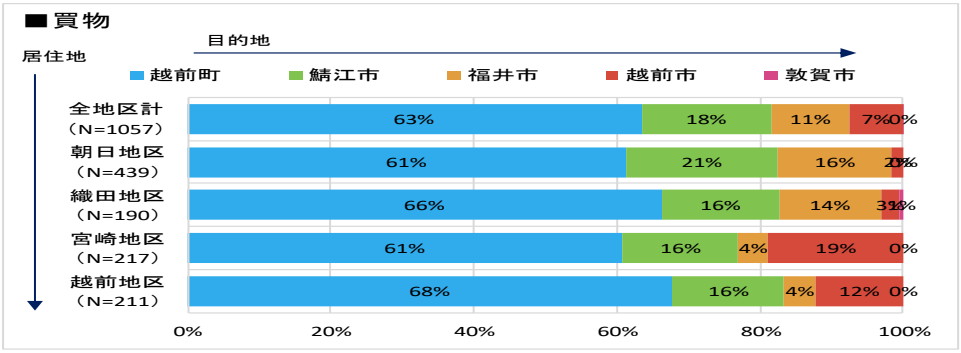


移動先の所在地

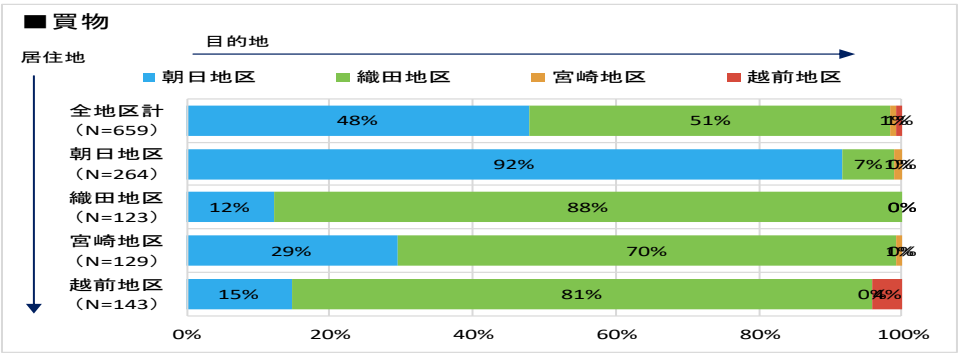
■買物

・町内への移動がいずれの地区も 6～7 割程度となっています。
・町内の移動をみると、朝日地区はほとんどが朝日地区内の移動となっています。一方、その他の 3 地区は、織田地区を目的地とする移動が多くなっています。

＜町内外の移動＞



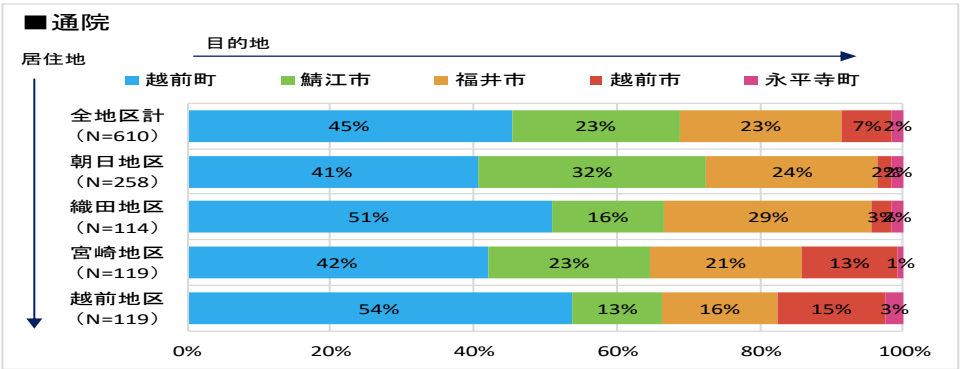
＜町内の移動＞



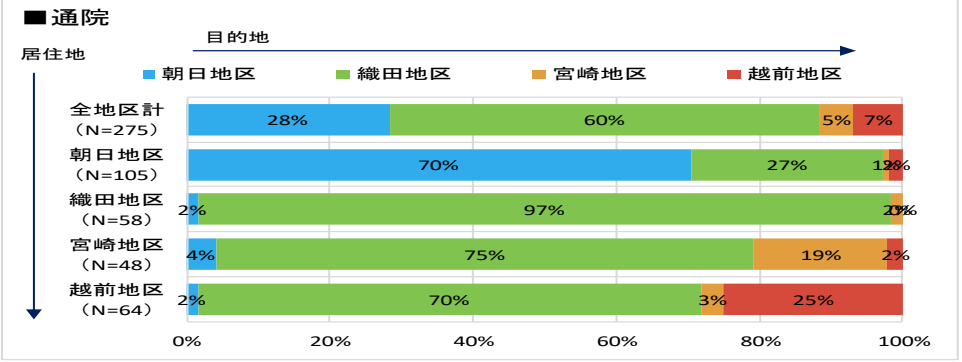
■通院

・町内への移動がいずれの地区も 4～5 割程度となっています。
・町内の移動をみると、朝日地区は 7 割が朝日地区内の移動、3 割が織田地区への移動（主に織田病院・次頁参照）となっています。織田地区はほぼすべて織田地区内の移動となっています。宮崎地区、越前地区は、地区内の移動が 2～3 割前後、残り 7 割程度は織田地区（主に織田病院）への移動となっています。

＜町内外の移動＞



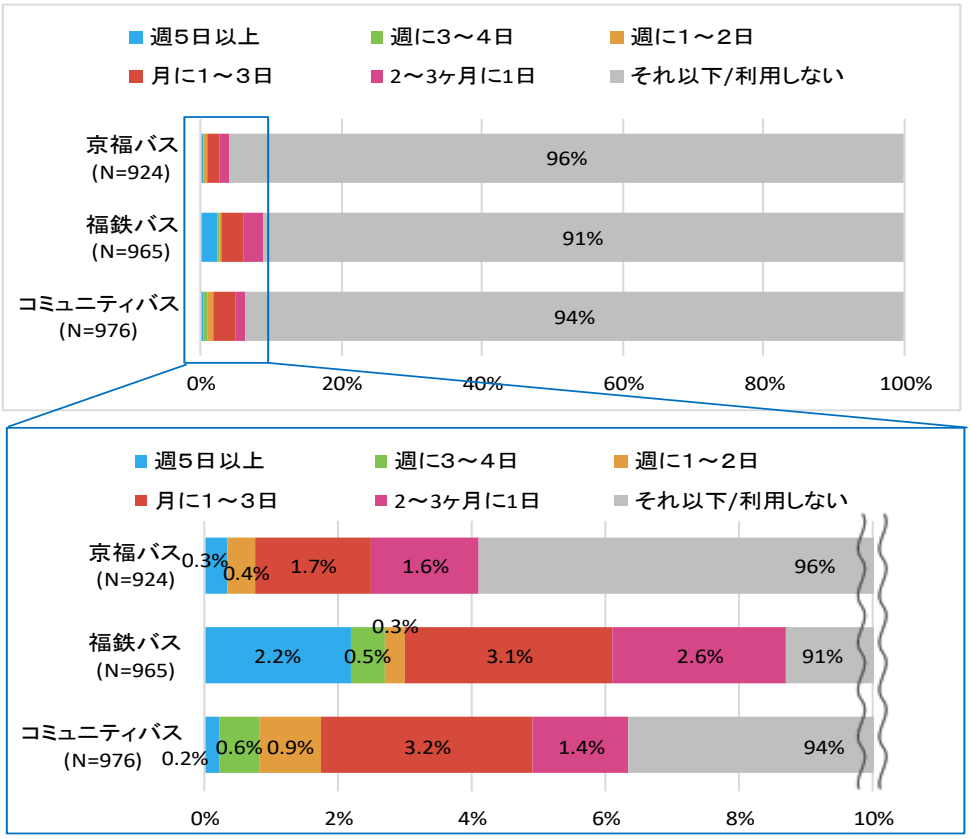
＜町内の移動＞



(3)　公共交通（電車、バス）の利用状況について

①　利用頻度

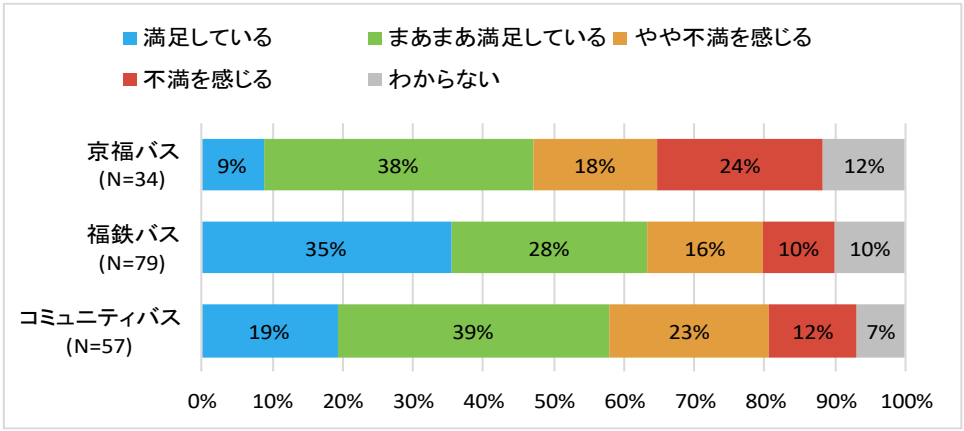
・2～3 ヶ月以下・利用しないとの回答がいずれの機関も 90%以上と非常に多くなっています。
・このように割合は低いなかではありますが、福鉄バスは相対的に週 5 日以上の多頻度利用者 2.2%と、他と比べて多くなっています。



②　満足度

・福鉄バス、コミュニティバスは、「満足している」「まあまあ満足している」合わせて 6 割程度、京福バスは 5 割程度となっています。

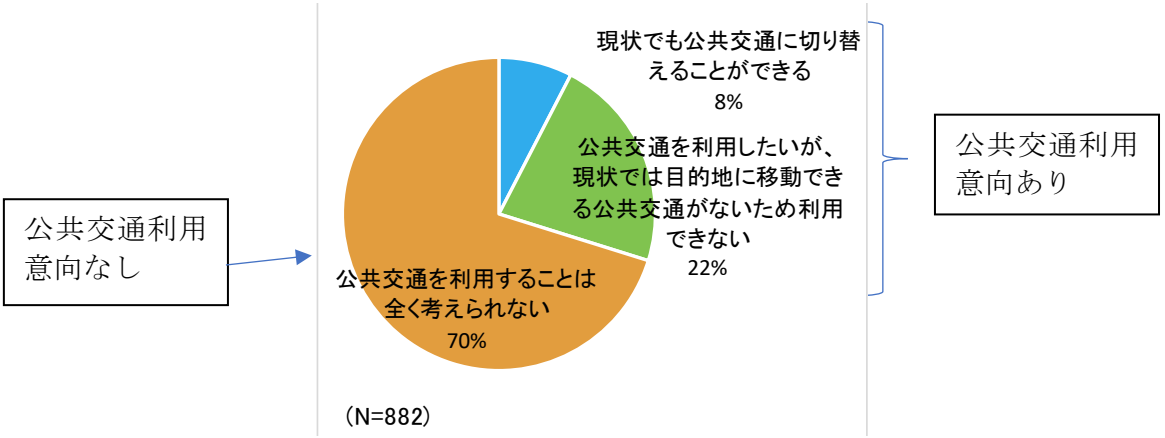
＜利用する人の満足度＞



(4)　公共交通（電車、バス）の利用意向について

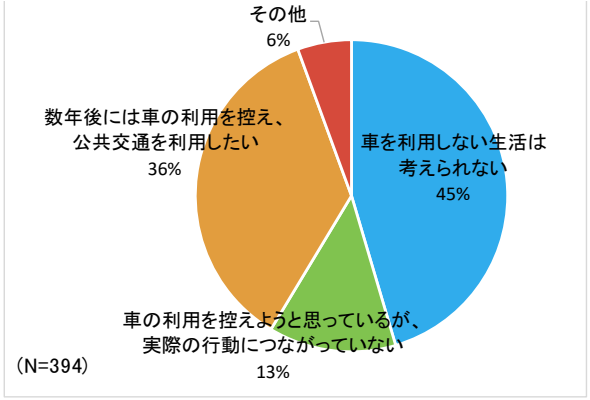
①　現時点での公共交通への切り替え

・「公共交通を利用することは全く考えられない」が 70%で最も多く、次いで「公共交通を利用したいが、現状では目的地に移動できる公共交通がないため利用できない」が 22%、「現状でも公共交通に切り替えることができる」が 8%となっています。



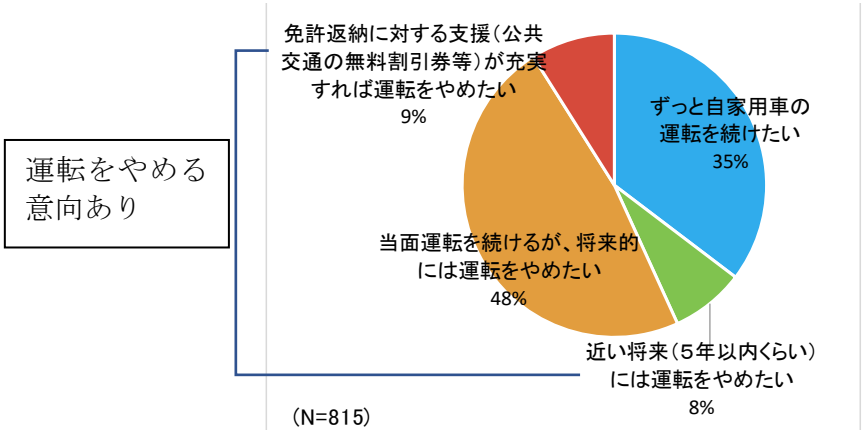
②　今後の自動車利用意向（公共交通利用意向ありの人）

・「車を利用しない生活は考えられない」との回答が約半数となっています。
・一方で、「数年後には車の利用を控え公共交通を利用したい」との回答は約 3 分の 1 となっています。



③　今後の自動車利用意向（公共交通利用意向なしの人）

・ずっと運転を続けたいとの回答が約 3 分の 1 となっています。
・一方残りの 3 分の 2 は、将来的にあるいは条件次第では運転をやめる意向のある方となっています。

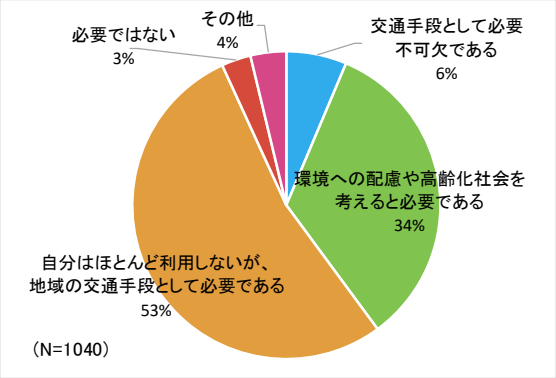


(5)　越前町の公共交通のあり方について

①　フレンドリー号について

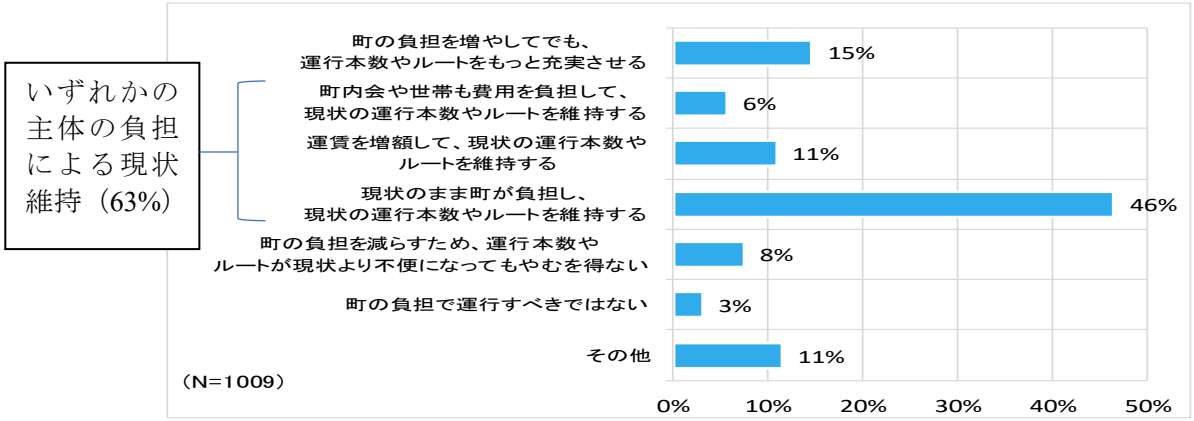
■必要性

・何らかの理由で公共交通が必要と考えている方が 9 割を超えています。一方、必要ではないとの回答は 3%と、ほとんどありません。



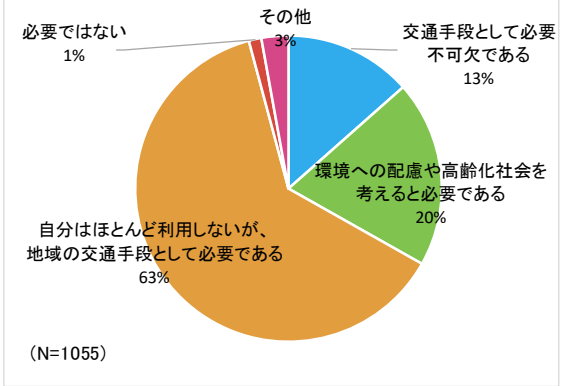
■今後の運行

・「現状のまま町が負担し、現状の運行本数やルートを維持する」との回答が約半数となっています。
・上記含め、いずれかの主体の負担による運行本数やルートの現状維持に関する意見が約 3 分の 2 を占めています。



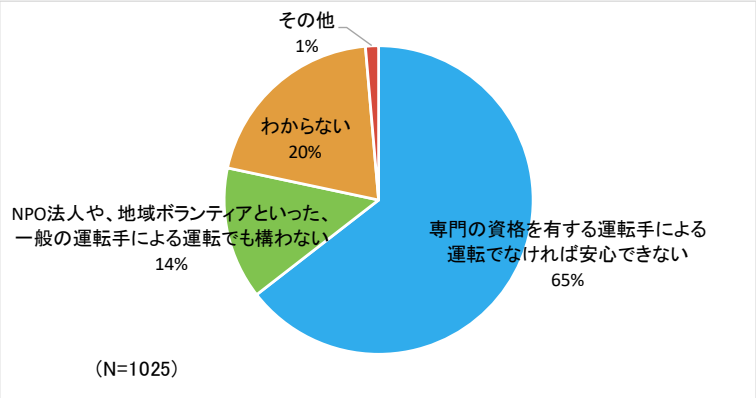
②　路線バス（京福・福鉄）の必要性

・何らかの理由で公共交通が必要と考えている方が 9 割を超えています。一方、必要ではないとの回答は 1%と、ほとんどありません。



③　交通事業者以外の運転による旅客輸送について

・「専門の資格を有する運転手による運転でなければ安心できない」との回答が約 3 分の 2 となっています。



(6)　自由回答

・バスの運行時間・本数や、ルートの見直しに関する意見が多くなっています。
・次いで現状維持の必要性に関する意見も多くなっています。

分類番号	主な意見	回答数
1	バスの現状維持が必要(必要・いつか利用するから　等)	73
2	バスの運行時間・本数見直し	91
3	バスルート見直し	42
4	バス同士・鉄道との乗り継ぎ・連携	31
5	バス車両の小型化	36
6	別システム(自由乗降・ボランティア運送・乗合タクシー)への変更	54
7	情報提供(時刻表・PR等)の充実	19
8	税金・補助金・支援を投入し、公共交通を充実	29
9	運賃の低減	16
10	免許返納制度の充実	34
11	公共交通の利用状況調査・モニタリングの必要性	19
12	バスは無駄である・廃止すべき	8
13	その他・わからない	49

(7)　アンケート結果まとめ

①　通勤・通学

・自家用車による移動が約 88%と多くを占めています。
・電車・バスの利用に関しては、「利用していない」が 93%、「利用している」が 8%となっています。利用しない理由は、「自家用車が便利」との意見が 46%で最も多くなっています。
・移動先としては、町内への移動が約 3 分の 1、それ以外は町外へ移動しており、鯖江市、福井市、越前市がそれぞれ約 2 割と多くなっています。
・町内の移動をみると、朝日地区は地区内の移動が約 7 割、それ以外の地区は 4～5 割が地区内の移動となっています。
・具体的には、町内にある丹生高等学校への移動が多く、次いで町外の高校である、武生高等学校、武生商業高等学校と続きます。
→通勤通学時間帯の町外（鯖江市、福井市、越前市）への引き続きの足の確保（既存路線バスの維持）とともに、町内の移動は地区内の移動及び各地区から及び丹生高等学校への移動を確保する必要があります。

②　日常の移動

■全般

・自家用車が 82%、家族送迎が 12%となっています。送迎先としては、「目的地まで」が 96%、「駅・バス停まで」が４%となっています。
・電車・バスの利用に関しては、「利用していない」が 94%、「利用している」が 6%となっています。利用しない理由は、「自家用車が便利」との意見が 36%で最も多くなっています。
→鉄道・バスの利用は非常に少なく、家族送迎の場合にも直接目的地に向かっており、ドア・ツー・ドアの自家用車移動への依存度が非常に高くなっています。

■買物

・移動先としては、町内への移動がいずれの地区も 6～7 割程度となっています。
・町内の移動状況としては、朝日地区が地区内の移動でほぼ完結している一方、その他の 3 地区は、織田地区を目的地とする移動が多くなっています。
→朝日地区に関しては、同地区内の買物施設への移動の維持確保（→朝日巡回ルート）が必要と言えます。一方、その他の 3 地区は、織田地区の中心部の買物施設への移動の維持・確保とともに、織田地区以外への需要はあまりない可能性があることから、コミュニティバス路線の織田を中心とした再編による効率化が求められると考えられます。

■通院

・移動先としては、町内への移動がいずれの地区も 4～5 割程度となっています。町外移動先としては、公立丹南病院、福井赤十字病院が多くなっています。なお、両病院とも、福鉄バス福浦線、鯖浦線で越前町内からアクセスは可能な状況です。
・町内の移動状況としては、朝日地区は 7 割が朝日地区内の移動、3 割が織田地区への移動（主に織田病院）となっています。織田地区はほぼすべて織田地区内の移動となっています。宮崎地区、越前地区は、地区内の移動が 2～3 割前後、残り 7 割程度は織田地区（主に織田病院）への移動となっています。
→各地区から織田病院へのアクセスを引き続き維持・確保するとともに、町外の病院（公立丹南病院、福井赤十字病院）と町内を結ぶ路線バスの維持・確保が必要と言えます。

③　公共交通の満足度（利用者）

・福鉄バス、コミュニティバスは、「満足している」「まあまあ満足している」合わせて 6 割程度、京福バスは 5 割程度となっています。
→既存のバス利用者であっても、なんらかの不満を持つ方が 4～5 割程度存在することがわかります。利用者ニーズにあった公共交通の改善が必要と考えられます。

④　公共交通（電車、バス）の利用意向について

・現時点での公共交通への切り替えはほとんどの方が難しいと考えている一方で、将来的には公共交通を利用したいと考えている方が 3 分の 1 程度います。また、自動車の運転を将来的にあるいは条件次第では運転をやめる意向のある方は 3 分の 2 程度存在します。
→将来的な公共交通の必要性や自動車の運転をやめる可能性については、一定程度認識されてはいますが、実際に将来に公共交通を残すためにも、ニーズに合わせた公共交通の改善による現時点からの需要喚起に加えて、「公共交通は乗って残す」との町民への意識づけが必要と考えられます。

⑤　越前町の公共交通のあり方について

・何らかの理由で公共交通が必要と考えている方が 9 割を超えています。一方、必要ではないとの回答は 3%と、ほとんどありません。
・また、フレンドリー号の今後の運行については、「現状のまま町が負担し、現状の運行本数やルートを維持する」との回答が約半数となっています。
・交通事業者以外の運転による旅客輸送については、「専門の資格を有する運転手による運転でなければ安心できない」との回答が約 3 分の 2 となっています。
→各種公共交通やフレンドリー号の必要性はほとんどの町民が認めており、サービスレベルの維持・改善に向け、町として引き続き取り組むべきと考えられます。一方、その手段として、NPO 法人やボランティア輸送を導入する場合は、手法を十分加味し、住民の不安の払拭に十分配慮する必要がある。

路線バス通学定期券提示による無料乗車

見込める効果

○ 路線バスで通学する高校生等が、路線バスとコミュニティバスを組み合わせて、追加料金を支払うことなく、効率良く帰宅することができる。

○ コミュニティバスにも無料で乗れることで、路線バス定期購入者が増える可能性がある。

○ 追加の行政負担をすることなく、交通弱者の移動の利便性が向上する。

○ コミュニティバスに高校生が乗ることで、高齢者の移動手段というイメージを払拭できる。

手段・方法

○ 降車時に通学定期券を乗務員に提示して降車する。

○ 無料乗車に使用できる定期券は、有効期限内の福井鉄道㈱・京福バス㈱が発行した通勤・通学用のバス定期乗車券でその区間は問わない。
ただし、定期券に発着停留所名が明記されている場合は、発着のいずれかが越前町内停留所であること。

※ 対象となる定期券等

福井鉄道　キャンパス・通学定期乗車券・通勤定期乗車券

京福バス㈱　通学定期券・通勤定期券・全線フリー通学定期・いきいき定期

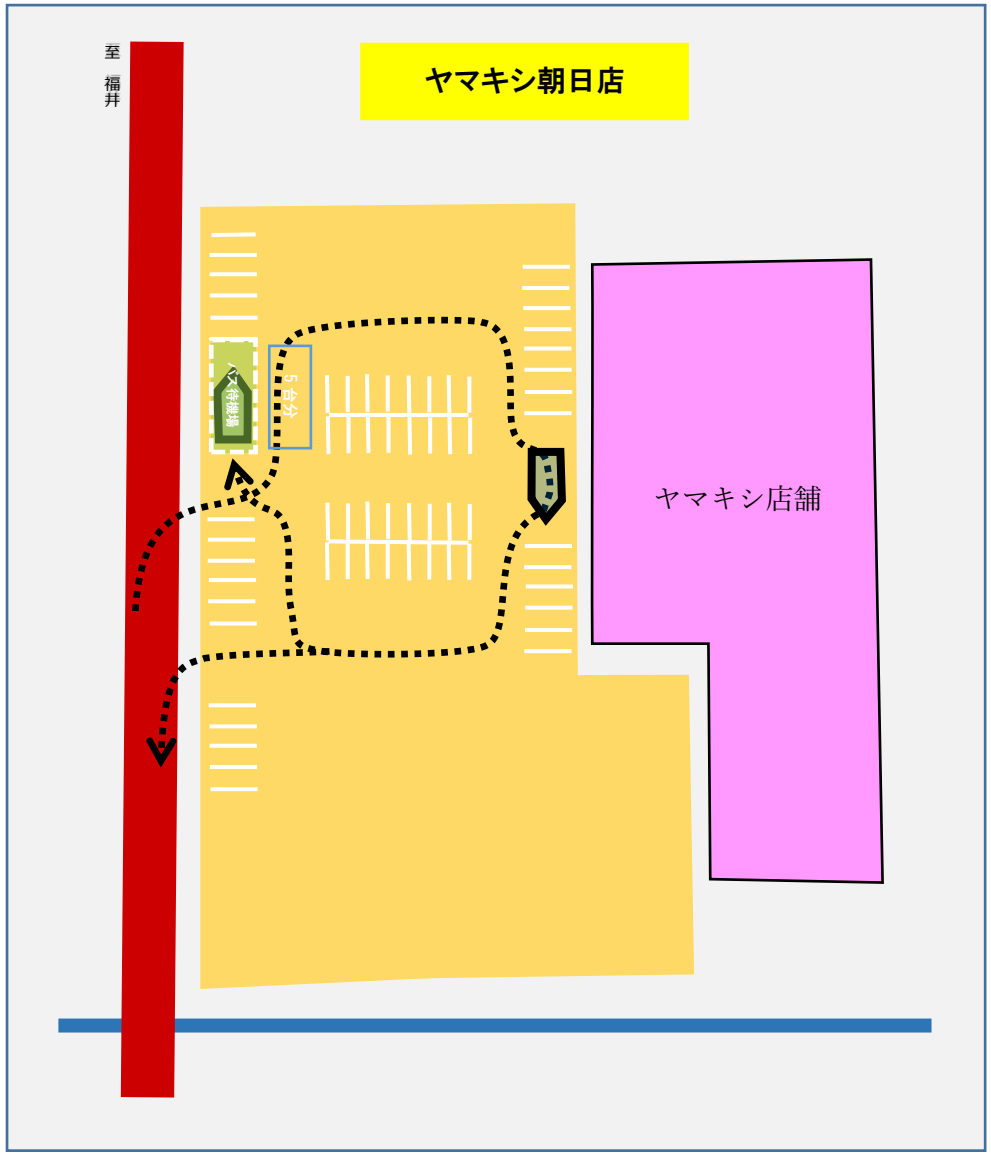
（福井鉄道が発行する高齢者対象のはんわりパスは、乗車運賃が半額になる証明証の意味合いが強いので対象外とする）

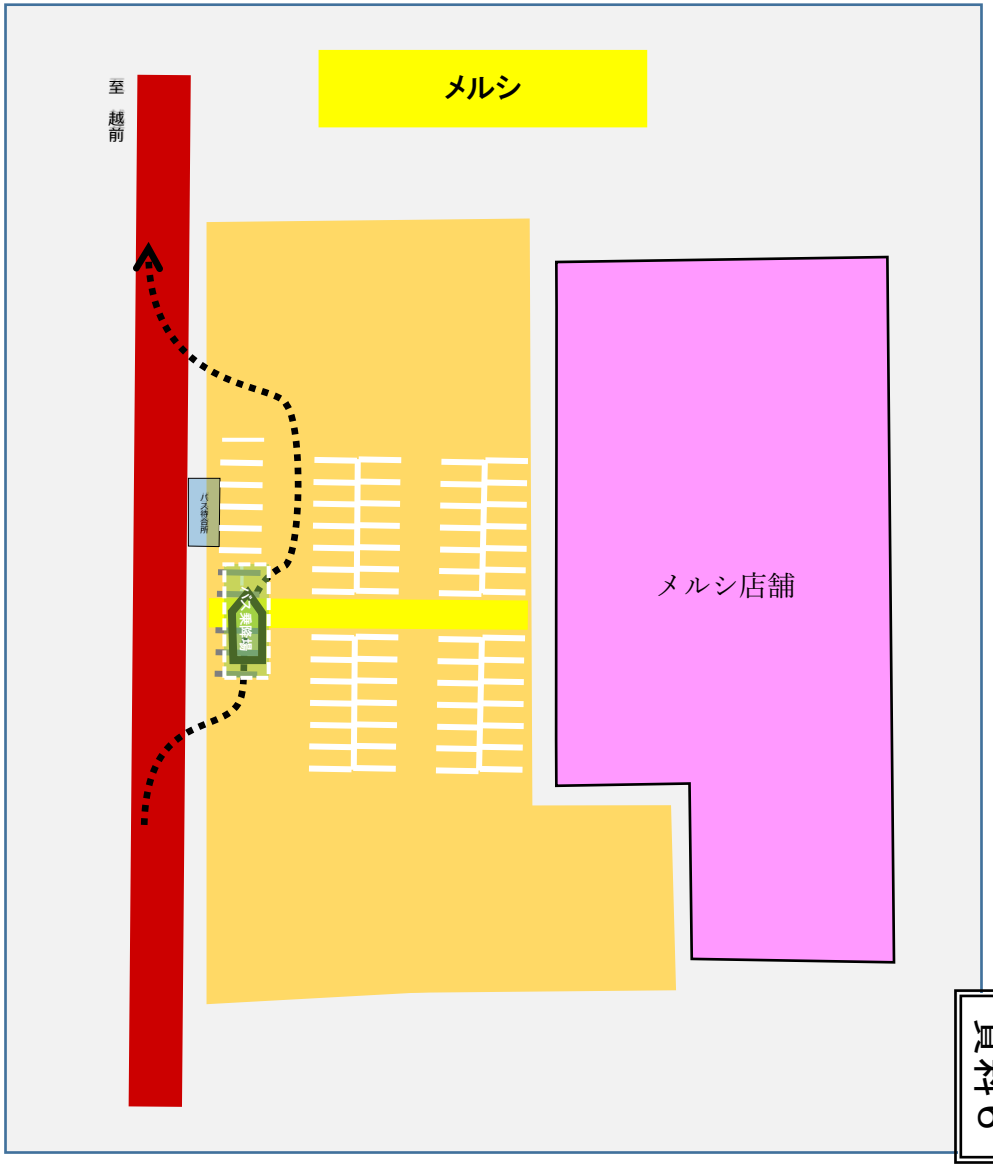
○ 無料乗車対象路線は、越前町コミュニティバス環状ルート右回り・左回り、朝日・宮崎・越前・織田地区巡回ルート、朝日・越前・織田地区乗合いルートとする。

○ 制度開始は令和２年４月１日からとする。

資料５

コミュニティバスの商業施設乗入れイメージ





資料６